

平成30年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第五中学校第1学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策
国語	関心・意欲・態度は全国平均を上回っており、その点が他の観点にも良い影響を与えた結果となっている。「読む能力」については全国平均よりも下回っており、特に文学的文章の読解に関しては、文章の表現を読み取るということに不慣れな生徒が多いように見受けられる。読解を複数回こなすことで様々な表現に触れ、文章を読むことに抵抗をなくしていく必要がある。	文章に書かれていることを一方的に指導するのではなく、随時生徒自身に読み取らせるように授業を行っていく。問いや答えを明確化し、生徒が納得して読み進められるよう丁寧に発問を設定する。また、読解に必要なスキルを授業のなかで重点的に身に付けさせ、次の単元に入った際や新しい読解に取り組む際に、学習したことを活用して読み取りを行うことができるよう指導を行う。
社会	意欲的に取り組んでいる生徒が多く、授業内での発言も多く見られる。しかし1時間の授業を漠然と受け、社会科は暗記物であるという意識で受け身の姿勢になっている場面も見られる。課題意識をもって取り組み、主体的に社会的事象を捉えるようになることが課題である。	本時の目標を提示し、1時間で何を考え、理解してほしいかを生徒に伝える。授業の最後には自己評価をさせ、目標に対してどの程度理解ができているかを確認させる。また、授業時に分かったことや考えたことを書かせ、知識の定着を図る。
数学	数学への関心が高く、授業に意欲的に取り組める生徒が多いが、その割には他の観点の正答率は低かった。また、「資料の活用」の領域において、特に正答率が低い問題があった。「図形」の領域では、全体的に正答率が低かった。	「図形」「資料の活用」の領域では、特に既習事項の復習を取り入れ、確認してから新しいことを教えることを意識的に行う。また数学への意欲関心の高さを維持するために教材の工夫を継続して行っていくとともに、家庭学習にも取り組めるように支援していくことで、基礎基本の定着も図っていく。
理科	実験・観察の作業を好む生徒が多く、意欲的に取り組む生徒が多い。既習事項の定着は出来ているものの、実験結果を文章や表、グラフ等でまとめたり、自分の考えを文章で表すことに苦手意識の高い生徒や、計算式を用いて結果を予測することが不得意な生徒が多い傾向にある。	・実験結果のまとめ方については、レポートの指導を行い、細かく指導をする。 ・自分の考えを文章で表すことについては、こまめに文章を書く練習を重ねて、指導をする。 ・計算については、主体的・対話的な学習を工夫し、生徒自身の力で解けるように指導をする。
音楽	意欲的に授業に取り組む生徒が多い。合唱やリズムなどの実技には積極的だが、鑑賞分野において感じたことを言葉で表現するということが苦手な生徒も少なくない。今後、どのように力を伸ばしていくか課題である。発声の基礎があまりできていない生徒も多い。また、楽典は基本の理解に個人差があり定着させていく必要がある。	合唱では、発声の確認をして、しっかりと歌う力を身に付けさせる。また、良い演奏を聴かせる。鑑賞において、自分の感じたことを言葉で表現するという活動を定期的に取り入れていく中で、具体的な説明を行い、表現できるようにしていく。楽典においては、合唱、器楽曲を行う度に触れて、繰り返し学習することで定着させていく。
美術	・元気で積極性もあり、どんどん制作する生徒が多い。 ・発想力豊かな生徒が比較的多い。 ・コツコツ作業を継続することを苦手とする生徒に対する支援は必要。 ・授業内でいかに鑑賞を取り入れるか。	・机間個別支援において、個々に応じた課題を的確に提示する。 ・黒板及び大型画面に作品の参考又は手順、目標とすべき表現などを常に提示し、いつの時点でも確認できるようにしておく。 ・PC室、図書室などを活用して鑑賞を多く取り入れる。又、教科書等を用いて授業内導入鑑賞も取り入れ、鑑賞の授業の充実を図る。
保健 体育	授業規律が確立され、意欲的に取り組もうとする生徒が多い。自分で課題をみつけて自主的に活動することは、まだ不十分である。2学期以降は保健分野で心身の発達、心の健康について学ぶ。	体育委員をリーダーとして育成し、自主的に活動できるようにする。授業の目的、内容を明確にして、準備、片付けを含めて生徒が自分達でできるようにする。又、基礎体力の向上を目指し、4分間走を準備運動に取り組んでいく。安全に関することは、毎時間必ず確認し、徹底させる。
技術・家庭	【技術】全体的に落ち着きまじめに取り組んでいる。総合ノートの活用により予習的に進めている部分がある中、自分の感想・表現が不慣れな生徒がいる。	【技術】領域別実習を通し、グループ化による進度に統一性を持ち取り組んでいる。
	【家庭】全体的に意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、「裁縫」に苦手意識をもっている生徒が少なくない。また、技能面での個人差が大きいため、個別指導が必要である。	【家庭】小学校で既習の基本的な技能を丁寧に取り扱い、再度身に付けさせ、自信に繋げる。また、机間指導や段階標本、色分けした製作手順を準備するとともに班内での教え合いも重視していく。
外国語(英語)	教師の発問に積極的に答えたり、ペアワークにも積極的に取り組んでいる。習熟の進んだ生徒がいる一方、学習内容の理解に時間のかかる生徒の割合も多い。特に英文法の些細なルールなどの定着や、書くことに対しては、毎時間の既習事項のふり返りの必要性がある。	・視覚的な教材を用いて、生徒の意欲関心が高まるような授業工夫を行う。 ・ペア、グループワークを活用し、積極的に英語を使い意思伝達を行う場面を作る。 ・教科書の新出語句に関して小テストやスプリングコンテストを行い、定着を図る。 ・既習事項を使い、身近な話題で生徒への質問を毎時間、繰り返し行う。 ・苦手な生徒に対して、課題提出など計画的なフォローを行う。